

平成26年7月からALT（外国語指導助手）としてアメリカからきたホール・ジョーセフさんがこのたび7月をもって任期満了となり、羽幌を去ることになりました。今回は、羽幌での生活を振り返りながら、インタビューをしましたのでご紹介します。

3年間暮らした羽幌の町はどうでしたか？

最初の印象は、自分の生まれた所に似ていた。みなさん、やさしい。町は小さいけど、心が大きい。島は景色がとてもきれいで眺めがよかった。



ALTの先生ということ、授業などで町の幅広い年代の子どもたちと触れ合う機会があつたと思いますが、羽幌の子どもたちはどうでしたか？

どこに行っても、みんな笑顔がいっぱいだった。小さな子どもたちも、会うたびに笑顔で「ジョー先生ハロー、グッドモーニング」とあいさつをしてくれた。授業もみんな楽しんできた。島に英語の授業で行ったときも、みんなやさしくて、歓迎してくれた。英語に興味を持ってくれる子どもが増えました。英語に自信をもって欲しいです。



ありがとう！ジョー先生



これからの予定は？また、どんなことをしたいですか？

これから具体的なことは、まだ決まっています。今就職活動をしています。夢は、国連に入りたいです。私の専門が国際関係と東アジア研究でその関係の仕事、国連でも外交のことをやりたいです。

町のみなさんへ一言お願いします。

みなさん3年間お世話になり、やさしくしてくれてありがとうございました。これから、みなさん、英語を忘れないで、新しいALTを英語でようこそ（歓迎）してください。英会話教室でもだちに、ありがとうございました。